

## LPガスCP情報(2016年4月積み)

### 1. 4月積みサウジアラムコLPガスCP

プロパン **320**  $\text{ドル}$  (前月比+30  $\text{ドル}$ )

ブタン **350**  $\text{ドル}$  (前月比+30  $\text{ドル}$ )

#### ① LPガススポット市況

LPガス市場をみると、原油・石油製品市況が反騰するなか、LPガススポット市況も上昇した。東京、中国昆明でLPG国際セミナーが開催され、マーケットは閑散とした状況もあったが、米、アフリカから大量のアーブ玉が入着、フレート市況の軟化や中国PDH向けの引き合いも強まり活況を呈した。第2週を底にCP先物市況は堅調に推移し、極東CFR市況も上昇、CP+30  $\text{ドル}$  どころとややディスカウント市況ながら第4週にはプロパン 350  $\text{ドル}$ 、ブタン 380  $\text{ドル}$  どころとなった。ナフサは原油市況に連れ反騰、月間平均では 367  $\text{ドル}$ 、前月比 47  $\text{ドル}$  の反発。バンカーオイルは、月間平均では 177  $\text{ドル}$ 、前月比 22.5  $\text{ドル}$  の反騰。

一方、米モンベルビュープロパンスポット価格は、全米プロパン在庫が減少し続騰、11日にプロパン、ブタン 250  $\text{ドル}$  まで上げたが、需要期を終え軟化、第4週末はプロパン 228  $\text{ドル}$  に戻している。NWE(北西ヨーロッパCIF)市況は原油市況に追随し月前半は反騰したが、第3週末には反落し、第4週はプロパン 270  $\text{ドル}$ 、ブタン 280  $\text{ドル}$  どころ。

4月CPは前年同月比プロパン 140  $\text{ドル}$ 、ブタン 120  $\text{ドル}$  のそれぞれ下落。原油(アラビアン・ライト)熱量等価換算では、前月に比べプロパン9ポイント、ブタン11ポイント下落。

	第1週	第2週	第3週	第4週	平均
フレート	33	32	32	32	32
CP先物指標：P	305	300	315	320	310
CP先物指標：B	330	320	345	350	336

#### ② 原油市況等

原油市況をみると、WTIは3月34  $\text{ドル}$  台でスタートしたが、サウジ、ロシア、カタール、ベネズエラ4カ国による合意(1月生産水準で凍結：足並みそろえること条件)を受け、4月17日に主要産油国による会合が開催される見通しとなり、供給過剰解消への期待感から17日には40  $\text{ドル}$  を回復、イエレンFRB議長の追加利上げに慎重な姿勢によりドル安が進行、原油市況に底打ち感が出た。石油掘削リグ数が減少し米国原油生産量は減少傾向が続いているものの全米原油在庫、クッシング在庫も記録的高水準に達し、増産凍結協議についてもイラン、リビアの参加表明がなく懐疑的な見方もあり上値は重い展開で第5週には40  $\text{ドル}$  を割り込んでいる。一方、NYMEXのWTI総取組高は30日時点で173万枚、前月末比2万枚の減少。大口投機玉の買越残高は22日で30.8万枚と前月比10万枚の増加、売建玉が手仕舞われ大幅減少。

○3月積みアラビアン・ライト(3月1~30日)は34.43  $\text{ドル}$  (前月比+5.51  $\text{ドル}$ )

熱量等価AL100% プロパン 282.29  $\text{ドル/トン}$  ブタン 278.42  $\text{ドル/トン}$

AL比 プロパン 113.36% ブタン 125.71%

\*上記アラビアン・ライトはEIN推計値、確定値は後日、Webサイトでご確認ください。

### 2. 2016年4月LPガス仕切(CPコスト変動分)への影響

適用期間	TTS	P:円建CP	B:円建CP	P前月比	B前月比
21~20日①	114.05	34,800	38,200	+900	+800
26~25日②	114.06	34,800	38,200	+1,200	+1,100
1~29日③	114.03	34,800	38,200	+1,400	+1,300

\*TTS平均は①が2月21日~3月20日まで、②は2月26日~3月25日

③は3月1~31日、①、②、③ともに4月仕切適用。①、②、③いずれも

前月・当月CP50%案分。詳細は(LPガス価格推移表等を参照)

なお、各社の仕切はフレート分、バンカーサーチャージ等の改定もなされるため、CPコスト変動分と実際の仕切と異なるケースがあります。更に、税制(石油石炭税260  $\text{円/トン}$  値上げ)、価格制度変更や為替レートの急変動等もあり、改定幅についてはご注意下さい。